



コロケが、本名〈滝川広志〉として臨む 初主演作。

「死」と向き合う現場で、命の尊さと大切な人への思いを描く
せつなくもあたたかい涙あふれる映画の誕生

STORY

水島は、葬儀社のベテラン営業部長。彼の務める会社に茶髪でピアスの若者・高梨が面接にやって来た。水島は周囲の反対を押し切って採用を決める。一見、軽薄に見える高梨だが、実は、御遺族にしっかり向き合い、自然体で心に寄り添う豊かな感受性の持ち主であった。妻を自殺で亡くした水島は、数多くの人の「死」を悲しむ心押し殺してきたが、高梨との出会いによって熱い心と妻への思いを取り戻していく。そんなある日、高梨がいじめを苦に自殺した故人に想いを寄せるあまり、参列者を罵倒するという騒ぎを起こしてしまう……。

誰もが避けて通ることの出来ない「死」を通して、命の尊さと大切な人を見送る思いを描いた、せつなくもあたたかい涙あふれる映画が誕生した。「ゆずりは」は、葬儀社に務めるベテラン社員と新入社員が、さまざまな葬儀の現場で出会う人々の悲しみや愛に触れながら、自身の迷いや葛藤と向き合っていく物語。「ゆずりは」は一年を通じて緑の葉を絶やさない常緑樹で、若葉が育つつを見届けて古い葉が落ちるその様から、代々受け継がれていく命のバトンにも見立てられる。少子高齢化社会の到来で、誰もが自らの「死」とどう向き合うかを問われる現代。葬儀という「別れ」を介して出会う人々の心の交感、老若世代を超えた幅広い観客層の共感を呼ぶことであろう。

主人公のベテラン葬儀社員・水島に、日本を代表するエンターテイナー・コロケが、本名の滝川広志として初主演。芸歴37年目の新境地をみせる。ある想いを胸に葬儀社で働く新入社員・高梨に、『ライチ☆光クラブ』(16)、の榎木玲弥。世代も考え方も違う二人がそれぞれに成長を遂げていく。原作は、葬儀をめぐる多彩な人間模様を描いた新谷亜貴子の同名小説(銀の鈴社・刊)。監督は、大ヒットドラマ「HERO」の加門幾生。脚本は、吉田順と企画演劇集団ボクラ団義で作・演出を務める久保田唱が共同で執筆。その他のキャストには、勝部演之(『金融腐蝕列島・呪縛』)、原田佳奈、高林由紀子、島かおりらが、ワークショップで見出された若手俳優たちと互いに刺激し合いながら、豊かな作品に仕上げている。また、本作のために書き下ろされた主題歌「襟～yuzuriha～」(babycatrecords)をR&Bシンガーソングライターの森本ナムアが透明感のある歌声で花を添えている。



「死」は「生」に一番近い存在です。「死」に触れた時ほど、「生」を感じたり思い出したりすることはありません。

毎日、消える命と生まれてくる命があります。

私たちも、そんな「繰り返される生と死」の営みの一部であり、そうした無数の命がこの地球という星を支えているのです。

誰かの命が傷つけられたり、奪われたりするニュースが多い今だからこそ、そんな思いをこの小説に託しました。

原作：新谷亜貴子

ゆずりは

「ゆずりは」2018年/111分/ピスタ
配給：エレファントハウス/
アジアピクチャーズエンタテインメント



©「ゆずりは」製作委員会

『ゆずりは』上映イベント

会場：八千代市市民会館大ホール

日時：10月8日(祝)体育の日

■13:30 開場

■14:00 イベントスタート

▶トークショー&八千代青少年少女合唱団の「ゆずりは主題歌」ミニコンサート

トークショー登壇者は、大和田紗希と加門幾生監督(予定)

※変更する場合がありますので予めご了承ください。

■15:00 ゆずりは上映会

前売券は、八千代市市民会館・八千代台文化センター・勝田台文化センターで発売中。

主催：「ゆずりは」製作委員会
(幹事：株式会社アジアピクチャーズエンタテインメント)
共催：八千代市・公益財団法人八千代市文化・スポーツ振興財団
入場料：1,000円(税込・小学生以下無料)

お問い合わせ先：●株式会社アジアピクチャーズエンタテインメント
東京都港区芝浦2-14-13 加瀬ビル161 4F
☎ 03-3452-2211
FAX 03-3452-2215

●八千代市 産業活力部 産業政策課 観光推進室
千葉県八千代市大和田新田312-5
☎ 047-483-1151(内線:3557)
FAX 047-484-8824

●八千代市市民会館
千葉県八千代市富田町728
☎ 047(483)5111
FAX 047(483)5113